

△産業宣教 産業人のやぐら(使 2:41-42)	△レムナント伝道学 レムナントの プラットフォーム(創 41:38)	△核心 やぐらの始まり(マコ 3:3-15)	△散らされた弟子たち 散らされた者の急務なやぐら (ロマ 16:1-27)								
産業人のやぐらだ。ダビデが成功するようになった二つが、一千のやぐらを作ったことと、神殿準備をしたことだ。産業人が計算せずに、みなさんがやぐら建てて教会を建てなければならない。 □序論_漁場(わざわざい地帯、死角地帯、黄金漁場) 1. 聖書のやぐら 1) 位置-安定して見ることができる所 2) 安全で集いもして、避難所、礼拝して祈る祈り場 3) 敵軍を見るやぐらになったり、光を照らして人々に助けになるやぐら 2. 内容 1) 人々に必要なこと。タラッパン、地教会を開いたとき、最も必要なことをするプラットフォーム 2) 人々に、いのちがあって光を照らす見張り人がいる見張り台 3) 私のたましいが生き返える糧、神様と通じる霊的なアンテナ 3. 見張り人- Key は見張り人 1) イザ 62:6-12 「昼の間も、夜の間も主を休ませないようにしなさい」見張り人は 24 だ。 2) エゼ 3:18-20 緊急なことを知らせること。いのちになる説教が必要だ。これを知る重職者があちこちに必要 3) マタ 5:13-16、1 ペテ 2:9 あなたは光であり塩、光を宣べ伝える王である祭司、聖なる国民だ。 △わざわざい地帯、死角地帯、黄金漁場にやぐらを立てて、人が生きることができるシステムを作らなければならない。 □本論_どのように? [祈りの基準] -生きているみことば、未来、力(サミット) 祈りの基準は、神様のみことばが生きて働かれるのを見ることだ。すると、未来が見えて、力が生まれる。そのとき、サミットになるのだ。 1. 個人のやぐら 1) 使 1:1-8 最も重要なキリスト、神の国、ただ聖霊 2) 使 2:9-11(10) 滞在中のローマ人たち 3) 使 2:17-18 「夢を見て、幻を見て、将来ことを言って」礼拝する、それ自体が答えだ。霊的に刻印されるのは礼拝する時だ。 2. 現場のやぐら 1) 使 2:43-45 使 2:9-11 の人々が献金をすべてした 2) 使 2:41 三千弟子 3) 使 2:42 礼拝が生かされる 3. 世界のやぐら-現場につながって世界のやぐらとして 1) 使 2:10 滞在中のローマ人たち 2) 使 18:1-4 パウロとローマから来たプリスカ夫婦の出会い 3) ロマ 16:3-4 ローマ福音化のためにいのちをかけた □結論 1. 福音化 2. 個人化 3. 世界化 教会の中で福音化、個人化、世界化しなければならない。	□序論_出発(Original stream) <table><tr><td>創 3:4-5, 6:4-5, 11:1-8</td><td>創 3:15, 6:14, 12:1-3</td></tr><tr><td>文化、経済、社会、政治</td><td>霊性、技能(学業)、文化(証人)</td></tr></table> すべての人が創 3:4-5、6:4-5、11:1-8 で始めた。ここで文化、経済、社会を作って政治をする。それゆえ、レムナントは創 3:15、6:14、12:1-3 から始まるべき。霊性が先に、ここで技能、学業が出てくること。そうすれば、上手にしてもしなくても必ず成功する。このとき、文化が出て証人になる。 □本論_順序 1. 霊的システム <table><tr><td>霊的サミット</td><td>レムナント 7 人。先に、霊的に大人になった。年齢は幼いが霊的には指導者、階級はないが霊的にはサミットだ。</td></tr></table> 2. つながるシステム 答えとは関係なく従ってくること <table><tr><td>1) タラント 2) 専門性 3) 現場性</td><td>-神様が与えられる タラントを持って少しだけ専門性、現場性を持てば成功する。</td></tr></table> 3. 征服するシステム 1) メディアが征服する方法(モーセ 5 書) 2) 結局は、非対面戦略だ。そのときも同じだ。 3) 弟子が出てくれば対面になること △すべての産業、学業、伝道も原理は同じだ。 □結論_器準備 1. 最適-神様が願われること、今必ずすべきこと 2. 最善-神様の時刻表 3. 最高-最高の絵を描きなさい。それが神様の目標	創 3:4-5, 6:4-5, 11:1-8	創 3:15, 6:14, 12:1-3	文化、経済、社会、政治	霊性、技能(学業)、文化(証人)	霊的サミット	レムナント 7 人。先に、霊的に大人になった。年齢は幼いが霊的には指導者、階級はないが霊的にはサミットだ。	1) タラント 2) 専門性 3) 現場性	-神様が与えられる タラントを持って少しだけ専門性、現場性を持てば成功する。	マコ 3:13 に「ご自身のお望みになる者たちを呼び寄せられたので」14 節には、ともにいる(身近に置く)ために呼んだと言われた。その事実を言うことが伝道なので「伝道もするために呼んだ」みなさんが答えを受けられないようにだます存在があるので「悪霊を追いつ出す権威も与えるために呼んだ」 □序論_金土日時代を開いて至急に準備しなければならないこと 1. 小学生(タラッパンで福音を正確に聞くように) -みことば刻印のために理解させて暗記させる(外国語にも) 2. 中高生(質問したいことと答えがある手紙) -今は刻印されるフォーラムが必要 3. 大学生-実際の祈りに対することを福音的、医学的、科学的、聖書的に話す 4. 青年(自己確認できるべき) -体験すべき 5. 重職者(自分の主張に捕えられているので変化を与えるべき) -実際に祈りサミットなるべき 6. 12 使徒-70 弟子(教役者は静かに、謙虚に福音を聞く人のためのやぐらをたてなさい-器準備) 7. 237-5000 種族(いやし-サミット) -各国の文化を変えないでいてはいけない。 □本論_福音的答え受けるようにすれば、みな解決される。それゆえ、イエス様が一番最初にお望みの者を呼ばれた。 1. 緊急な(福音)解決 1) 奇跡 2) 神殿 3) 律法のために福音のがしてしまい福音を止めたのだ。 ※ WITH, Immanuel, Oneness - わたしがあなたがたを呼んだのはともにいるためだ。正しい福音は、キリストと神様が私とともにいるためだ。私たちとともにいるためだ。すべてのことを働かせて神様の計画を成し遂げる祝福の中にあるようにするためだ。 2. 緊急な伝道解決 1) 異邦人の庭 2) 子どもたちの庭 3) 祈りの庭がない。 3. 緊急な霊的問題解決 1) ネフィリム運動 2) 憑依運動していたのに来て。 3) 多くの宗教団体が霊が乗り移ることをする。私たちだけでも神様が最も願われることをしよう。 □結論_真の答え受けられない理由 1. 人の話-本当の答えは神様がくださる 2. 仕事-神様に栄光をささげる重要なこと 3. 問題-真の福音を奪われてはいけない。よくわからなく、助けることができず、祈ってあげることができない私の誤りだと話せ。ここに巻き込まれずに世界福音化しなさい。 どこにいるかが重要-みなさんは神様が成し遂げる最も重要な契約の中にいるのだ。	□序論_ネットワーク「みことば相談コーナー」(インターネット)(5-10 年) 霊的問題 多くの多民族がいろいろな所にいるということを肝に銘じて、ネットワーク、みことば相談コーナーのようなものを作る必要がある。5 年~10 年内には、さらにこれ以上集まるようにする集いは意味がない。インターネットが良くできない所は、結局、開くようになっている。個人に想像以上に霊的問題多い。 □本論 1. やむを得ず、今、他の国が生きているからなった捕虜になった者 1) 創 45:1-5 ヨセフが答えをあげると門が大きく開かれる 2) 出 5:1-12:46 モーセ 1 人が重要な契約を握るので神様は大きい門を開けられた。 3) ダニ 1:8-9 のようなことがバビロンでも 4) 使 1:6-7、8 なぜローマに属国になったのだろうか。「あなたがたは知らなくてもよいのです」なぜか。答えがあるから。「しかし(ただ)聖霊があなたがたの上に臨まれるとき証人になります」 2. 他国に散らされた者 1) 移民 2) 業務 3) 留学生 3. 現地にいる人々、制せられた者 1) 禁じている国に制せられた人がとても多い。 2) そこに隠された弟子 3) その国に自国民もいる。 □結論_結論はイエス様がおっしゃったとおりに弟子を探すこと。
創 3:4-5, 6:4-5, 11:1-8	創 3:15, 6:14, 12:1-3										
文化、経済、社会、政治	霊性、技能(学業)、文化(証人)										
霊的サミット	レムナント 7 人。先に、霊的に大人になった。年齢は幼いが霊的には指導者、階級はないが霊的にはサミットだ。										
1) タラント 2) 専門性 3) 現場性	-神様が与えられる タラントを持って少しだけ専門性、現場性を持てば成功する。										

2023 第 1, 2, 3 RUTC 答え 25 (11) (社)世界福音化伝道協会 www.wedarak.net							
2023 年 3 月 12 日 週間祈りカード							
△区域メッセージ (第 11 週) 3 時代を生かす力と 25 の答え (創 2:1-18)	△聖日 1 部礼拝 謙遜で大胆な福音を持っている者たち (使 23:1-11)	△聖日 2 部礼拝 絶対不可能を絶対答えとして見た弟子 (使 27:24-25)					
神様は私たちのひとりを通じて 3 時代 (過去・現在・未来) を準備しておられるのに、私たちは実際に 3 時代を生かす力がない。それゆえ「25」の答えで創 2:1-18 を回復するのだ。 <table border="1"><tr><td>(御座) 祈り (御国)</td></tr><tr><td>最初 最後</td></tr><tr><td>世の国 (衣食住)</td></tr><tr><td>サタンの国 (不信仰)</td></tr><tr><td>神の国 (礼拝)</td></tr></table> △この 25 答えを味わうのは祈りしかない。イエス様が祈りに対して一番最初に言われ、最後にまた言われた。このように、祈りはすべてだ。祈りは三つで答えになっている。世の国は衣食住を言う。これを心配すれば、不信仰が起るが、サタンの国だ。この背景を知って礼拝すれば刻印されて、祈ってみことば聞いて根をおろされる体質なる。礼拝時間にサタンの国が全部神の国に変わるのだ。 □序論 1. できない。できる。 この三つの国を分らないと、信仰生活も事業も良くできない。ずっと不信仰すればサタンの国が成り立って、神様の計画も門も見えない。しばしば問題が来ると傷を受ける。 2. プラットフォーム 私たちの中に神の国のプラットフォームを作りなさい。できなくなっているのではなく、できていること。私たちの家族と周囲の人に向かって信仰を持って祈るとき、霊的プラットフォームが作られる。 3. 神様の計画 それゆえ、私たちは常に「神様の計画が何か」を質問しなければならない。それ自体が神の国が成り立つ始まりだ。 □本論 1. 過去 (土台)、現在 (証人)、未来 (道) 神の国が臨んだというのは、過去、今日、未来を生かしたこと。過去は土台が、今日の問題はあかしで、未来は神様の答えがあらかじめ見えて、道が見え始める。 2. 教会-御座の影、道しるべ、憩い場 教会を生かす答えが来る。教会は御座の祝福を味わう影だ。御座の祝福を味わう教会が道しるべになったり、霊的祝福を味わう憩い場になったりもする。 3. 職業 1) 専門化-職業に専門化がくるのに、ただ・唯一性・再創造が出てくる。 2) 弟子化-この祝福をともに味わう人々も出てくるが、これが弟子化だ。 3) 世界化-必ず福音を伝えなければならないから世界化になる。 □結論 聖霊の満ちし イエス様が「ただ聖霊があなたがたの上に臨めば」と言われたが、この言葉は満たされたということで、「すると、力も受けて、いよいよ地の果てまで行く証人になる」と言われた。	(御座) 祈り (御国)	最初 最後	世の国 (衣食住)	サタンの国 (不信仰)	神の国 (礼拝)	□序論_神の国の奥義を持って行きなさい 1. 神の国 (使 1:3) 1) ツラノで 3 か月の間、神の国について大胆に説明した後に起きたパウロの裁判は最高の答えの時刻表 2) 世の国 (衣食住)、サタンの国 (聖書で強調)、神の国 (私たちにくださった答え) 3) 神の国を味わう祈り-三位一体の神様が、御座の力 9 つが私に臨んでください。世の中を生かす 3 時代を変える力、暗やみに勝つための宇宙の力を私に与えてください。 4) 来る答え-神様の御声 (使 23:11) 2. 勇気を出しなさいと言われた理由 1) 危機でなく、世界福音化に向かった道で会ったことであるため (ヨシ 1:5-9、イザ 41:10、使 23:11) 2) 心配したり困難に捕えられてしまえば、錯覚に陥るため-荒野で二種類の人々 3. 産業と現場に暗やみが砕かれる神の国が臨むのが一番最初であることを信じなさい。 1) 信じた人ターパウロ (使 19:8)、ペリシテを砕いたサムエルとダビデ、バビロン時代に王に福音を伝えた 2) あなたたちの思い煩いを主に任せてしまいなさい (1 ペテ 5:7-8) 3) だまされてはならない。神の国が家、現場、産業の場に必ず臨まなければならない。礼拝して祈るとき、そのことが成り立っている。 □本論_神様の祝福を見つけ出す方法 1. 神様のみことばを堅く握れば必ず勝利する。 1) 神様のみことばは生きているみことば-今でも起きる創 3、6 章、これ止める答えが福音 2) 私に与えられた契約が合うならば、どんな場合も勝利 (使 9:15、23:11、27:24) 3) 神の国を祈りで味わって契約を正確に握ればどんな場合にも勝利 2. パウロが法廷とローマに行く理由は生かしに行くことだ。 1) 神の国の奥義を持って生かしに行きなさい。 2) 死刑宣告されて聖書をすべての民が読めるように翻訳したルター 3) 神様の契約を握って神の国を味わうならば働きが起きる。 3. 世界福音化すべき伝道者の道を行こうというときに起こること 1) イエス様の約束 (マタ 28:18-20、マコ 16:15-20 とともに、使 1:8 証人) 2) この契約を握って祈るとき、産業と学業に神様がともにおられることを見るようになる。 □結論_パウロと伝道者の特徴-謙そん、大胆 1. 日頃、この祝福をいつも味わった人々 ヨセフ (創 41:38)、ダビデ (詩 23:1)、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ (ダニ 3:16-18)、ダニエル (ダニ 6:10)、パウロ (ピリ 4:4、6、13) 2. 祈り-契約の中で私たちのたましいが御座とつながる時間	絶対不可能の中に絶対可能が入っている。 「難破船の教訓」 - 「恐れてはいけません。パウロ」理由は「カイザルの前に立ちます」これは絶対可能だ。絶対可能な答えが見える時まで祈りなさい。 □序論 1. 福音を止めるサタンの方法-肉的正しい言葉 2. サタンは福音 (キリスト)-恐れる 3. 迫害-神様の答え時刻表 (ターニングポイントを成し遂げる時刻表) □本論_苦しみにあうことには神様の絶対計画が入っている。 1. ローマも見なければならぬ-あらかじめ約束されたこと 1) 使 19:1-7 マルコの屋上の間に起きた「信じたとき聖霊を受けましたか」違うことでは世界、家系、今からくる時代を変えることはできない。 2) 使 19:8-20 この契約を握って神の国を説明したところ、みことば運動が起こって、いやしが起きた。 3) 使 19:21 その後に悟ったのだ。 2. ローマでもあかししなければならない 1) 事件は答えの時刻表-RT7 (時代のローマを見るべき) 飢饉のときヨセフ、ゴリヤテの侵略のときダビデ、アラムの国の攻撃のときエリシャを用いられた。 2) 法廷-パウロの上告 (ユダヤ人が福音を止めるので属国になったのを活用して上告。皇帝に福音を伝えればローマと世界がすべて聞くようになる) 3) 使 23:11 (証人) -神様の証拠を持っているので滅びない。 △神様の証拠を握る礼拝をささげなければならない。一度ももれなく答えとしてくる。 礼拝 (たましい)-礼拝のとき、集会のとき、神様の特別な計画が臨んで、たましいの中に神様のみことばが刻印される。残りは根をおろすことだ。 3. 恐れてはならない-カイザルの前に立たなければならない 1) 罪人でない囚人として行ったパウロ (多くの罪人を生かすために) 2) 暴風 (わざわい) 時代-人々は神様のみことばを聞かず、主のしもべの話を信じず、自分たちが便利なことを好む。世論について行く。階級、財物、技術がわざわいを止めることはできない。 3) メッセージを伝達したパウロ-人々がみことばを握ったら、暴風が終わり始めた。カイザルの前に立つ前に証拠が起きた。 △絶対不可能なことの中に絶対可能を見つけることが礼拝だ。契約を握っていれば必ず成就されている。 □結論 1. 誰も教えない生活-多くの人がここに陥っているので、この答えを与えなければならない。 1) 強大国 2) 弱小国 (強大国の奴隷) 3) すべてサタンの奴隷になっている 2. 問題-神様の絶対計画を発見 (絶対可能を見る) 3. 礼拝をささげるとき 3・9・3 が刻印されれば、生きる間、ずっと根、体質になる。
(御座) 祈り (御国)							
最初 最後							
世の国 (衣食住)							
サタンの国 (不信仰)							
神の国 (礼拝)							